



やっぱり馬が好き

紛争を逃れて日本で暮らす子どもたちと、乗馬体験に行ってきました。
 このように書くと、「難民の子どもたちをホースセラピーに連れて行った」と理解される方もいるでしょう。結果的にはそのとおりなのですが、最初からそれを意図したわけではありませんでした。

Yくんが日本に来たのは小学校低学年のとき。日本語はすぐに覚えましたが、勉強は苦手です。でさの良い妹と常に比較され、学習意欲はなかなか向上しません。

彼は、出会ったころから、「馬が好き」と言っていました。日本に来る前、馬の世話をしたことがあるそうです。彼の母国では紛争が年々激しくなり、来日直前は隣国に避難していたので、いつの記憶なのかははっきりしません。それでも、彼の中では鮮烈な思い出になっているようです。馬は、帰れない母国への郷愁と、幼いながらも自分が働いて役に立ったという自己効力感と呼び覚ますのかもしれない。馬の世話をすることで、周りの大人たちが褒めてくれたのでしょうか。

日本で暮らす外国ルーツの子どもたちは、どちらかといえば褒められるよりも、もっと勉強・日本語を頑張れという励まし(?)にさらされることのほうが多いように感じます。難民の子どもたちすべてが高等教育に進むことを希望しているわけではなく、中学を出たら働いて人々の役に立ちたいと思っていた子どもたちもいます。彼らの母国ではそれも普通の生き方だからです。先進国に移住すると、そのようなメンタルモデルも修正を迫られます。

Yくんはもう中学生。進路を考えなければいけない年齢に差し掛かっています。私たちは最初、高校選択の助けにもなり、本人も興味を持てることを考え、ドローンなど最新テクノロジーに触れる機会を提供しました。広い意味での職業体験です。それなりに関心を示したものの、会場に向かう途中の駅で、馬のポスターを見たときの反応と目の輝きは、まったく別次元のものでした。そこで私たちは、ただ単純に、馬に接する機会を提供したいと思いました。

乗馬体験の企画について彼に話したところ、想像したとおり妹たちも「行きたい!」と声を上げました。もうひとり、Yくんと同様の背景を持つ青年も誘い、4人を連れて行くことにしました。

当日、行きの道中からさきようだいは興奮気味。対照的に、少し年上の青年は至ってクールです。

が、実際に馬を目の当たりにすると、彼らの表情は見る見る変わりました。これは、私たちが一番驚いたことです。表情も言葉も生き生きとして、かつてないほど積極的です。これまでに見たことのない一面が引き出されました。短い時間でしたが馬に乗り、厩舎の方にいると教えてもらい、ポニーに餌をあげることもできました。帰るときには、「また来る!」、「ここで働きたい!」、「いくらあれば会員になれる?」など、質問攻めに会いました。

馬、おそろべし。できることなら、定期的に、もっと多くの子どもたちを連れていきたいものです。



支援活動へのご寄付はこちら

活動報告

韓国の妊娠支援についての内部勉強会



1月13日(木)にISSJ職員向けの勉強会を行いました。講師に白目大学准教授の姜 恩和(カンウナ)先生をお招きし、韓国の養子縁組における動向や政策、妊娠支援について学びました。

養子縁組・妊娠支援それぞれに先進的な取り組みを持つ韓国。超少子化が進む中で養子縁組の件数は減る一方、子期待め妊娠をした女性に対する支援は医療、養育、教育、職業訓練と、社会復帰まで切れ目なく提供される体制があります。この制度の発展には草の根の支援団体の実績の積み重ねや、当事者たちの積極的な活動が背景にあります。妊娠支援に関するヒントが沢山ある学びの多い時間となりました。

子どもの発達に関する事例検討会



11月に開催したオンラインセミナー(外国にルーツのある子どもの発達に関する相談支援)のフォローアップとして、事例検討会を開催しました。講師は前回と同じ東谷知佐子先生です。

少人数限定で、様々な地域から異なる職種の方々にご参加いただき、多様な視点で検討することができました。外国につながる子どもの発達の課題は日本ではまだ議論も少なく、現場の支援者は孤立しがちです。このセッションを通じて悩みを共有し、対応を一緒に考えることもできました。

「皆さんの事例やご意見を拝聴し、自分自身の日頃の関わりについても振り返りきっかけとなるとともに、今後の支援にも知識・スキルとしてつなげていきたいと感じました。」(アンケートより)

これを機会に、関係者のネットワーク作りにも取り組む予定です。

オンラインセミナー開催「フィリピン人児童の出生登録手続きについて」



1月22日(土)に4回連続オンラインセミナーの最終回を行いました。講師はフィリピン大使館領事部の公使・総領事セルナ・チュア・シャーマイン氏をご招待。フィリピン人児童の出生登録手続きについて、法制度をはじめ、具体的な必要書類、書類取り寄せ・申請時の大使館・領事館側の配慮など、幅広く説明頂きました。全国から95名の参加申込を承り、講演後のアンケートでは約95%の参加者からご好評を頂きました。

2022年度もオンラインセミナーを企画する予定です。詳細が決まりましたら改めてご案内いたします。どうぞお楽しみに!
 (写真は講師のセルナ・チュア・シャーマイン氏)

ソーシャルワーカーのつぶやき vol.7



養子当事者の気持ちを知りたいと思い、ネット検索することがあります。そして養子当事者でもある、ふくだもこ監督のインタビューに行き着きました。観賞した映画『おいしい家族』は、多様な家族の在り方や自分自身の無意識に思う「ふつう」がいかに偏ったものであるか、ということに気づかされる作品でした。

養子縁組を描いた映画ではないですが、「家族それぞれが自分らしく生きるとは、こういうことである」と気づかされ、観終わると心が温かくなりました。鑑賞後、自分の周りの人が自分らしさを得ているか、確認したくなる映画です。(山口)

スタッフ紹介(重藤裕子)



ISSJに入職し今年で14年をむかえます。主に難民・移住者の支援に携わってきました。社会のなかでのひとの生き方、家族の在りようの見え方を、ずっと複雑に、立体的にさせてくれる、そんな職場です。

2016年までのカンボジアの識字教室支援にも関わらせてもらうなかで、すっかり暖かな国とそこに暮らす人たちの虜になりました。以前は連休をつかってよく国内の島に出掛けていました。奄美の魚味噌、久高島の海ブドウ、八丈島のあしたば...。暖かな風と美味しいごはんを求めて、またふらりと旅に出かけられる日が待ち遠しいです。

最後までお読みくださり、ありがとうございました。ISSJメルマガに関するご質問・ご意見がございましたら、mailmagazine@issj.orgまで、お気軽にお問合せください。

ISSJ公式Facebookをフォロー!

最新情報は公式Facebookページにて、随時更新しております。よろしければご覧ください!

